

令和7年度 授業改善推進プラン 英語科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

★取り組みにおける成果と課題

- ・外国人講師との授業で、英語に対する意欲やコミュニケーション能力の伸長につながった。
- ・単語テスト、単元テスト、定期考査の振り返りを行い、基礎的な力を定着させるための工夫ができた。
- ・毎日の宿題や家庭学習を習慣化させる工夫が必要である。
- ・基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。

英語の内容別結果の分析 (区・学習効果測定)

| 内容 | 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|------|---|--|--|
| 聞くこと | ○校内平均正答率は、目標値を5.8ポイント上回っている。また区の平均値は1.3ポイント下回っている。 ○リスニング力はおおむね良好であるが、日常会話で使用する表現をさらに定着する必要がある。音声と文字が結びつくように、スピーキング活動と連携して、リスニング力を向上することが求められる。 | ○校内平均正答率は、目標値を3.4ポイント上回っている。また区の平均値は1.0ポイント下回っている。 ○リスニング力はおおむね良好であるが、英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを書く力に課題がある。 | ○校内平均正答率は目標値を0.2ポイント上回っている。しかし、区の平均値を2.0ポイント下回っている。 ○リスニング力は全体的におおむね良好であるが、日常的な話題を聞いて要点を捉える力に課題がある。 |
| 読むこと | ○校内平均正答率は、目標値を9.4ポイント上回っている。区の平均値に対しても、1.7ポイント上回っている。 ○簡単に短い文章を理解するため、授業や家庭学習でさらなる定着を図る必要がある。 ○英文を音読することに前向きな生徒が多く、今後も継続的な音読活動が必要である。 ○必要な情報を表などから読み取り、英文で表現する活動を定期的に組み込むことが求められる。 | ○校内平均正答率は、目標値を1.7ポイント上回っている。また区の平均値は1.6ポイント下回っている。 ○対話文や長文の読み取りなどの読解力もおおむね良好であるが、文構造や文法事項の理解に課題がある。 | ○校内平均正答率は、目標値を0.3ポイント上回っている。しかし、区の平均値を2.1ポイント下回っている。 ○長文の内容理解の問題に課題がある。また、内容の概要を捉えて英文を完成させる力に課題がある。 ○読解力を向上させるために、基本的な文法や表現を授業や家庭学習で復習する機会を増やす。また、教科書の音読や内容に関する問題演習を増やす。 |
| 書くこと | ○校内平均正答率は、目標値を7.9ポイント上回っている。また、区の平均値に対しても、1.2ポイント上回っている。 ○英作文の無回答率が3.0パーセントとあり、おおむね主体的に取り組む態度をもって取り組んでいる。身近で簡単なテーマについて、自分の考えを数行でまとめる力に課題がある。今後の基礎練習の積み重ねが必要である。 | ○校内平均正答率は、目標値6.4ポイント上回っている。区の平均値は0.1ポイント下回っている。 ○英作文に関してはおおむね良好であるが、与えられた情報に基づいて書く力に課題がある。授業や家庭学習で、既習事項を使って、様々なテーマについてまとまりのある英文を書く練習を積み上げていく。 | ○校内平均正答率は、目標値を0.8ポイント下回っている。また区の平均値を5.3ポイント下回っている。 ○対話の流れに合う英文を相手に伝えるように書くことや与えられたテーマについて、具体的な説明や理由を付けて書くことに課題がある。授業内や家庭学習で、様々なテーマについてまとまりのある英文を書く練習を積み上げていく。 |

英語の観点別結果の分析 (区・学習効果測定)

| 観点 | 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|----------|---|---|--|
| 知識・技能 | ○校内平均正答率は目標値を8.7ポイント上回っており、区の平均値よりも0.1ポイント上回っている。 ○基本的な文の語順や表現の定着が必要である。 ○既習内容の反復学習が求められる。 ○日常会話や対話文に慣れ、何が問われているのか読み解く力をつけることが課題である。 | ○校内平均正答率は、目標値を3.1ポイント上回っている。しかし、区の平均値を0.3ポイント下回っている。 ○be動詞や一般動詞の過去形、代名詞を中心に、基本的な語彙・文法を復習し、さらなる語形・語法の定着を図る必要がある。 | ○校内平均正答率は、目標値を0.6ポイント下回っている。また、区の平均値を3.8ポイント下回っている。 ○文の語順や文法事項を理解し、英文を作成する問題やメール文の内容理解はよくできていた。しかし、接続詞のthatやbecauseを中心に、基本的な語彙・文法を復習し、さらなる語形・語法の定着を図る必要がある。 |
| 思考・判断・表現 | ○校内平均正答率は、目標値を5.2ポイント上回っている。また区の平均値よりも0.8ポイント上回っている。 ○語群などを参考にして、自分のことを表現する英文を書くことがよくできていた。しかし、英文を読んで、必要な情報を読み取ることが課題である。教科書の本文を通して、簡単な要約をするなどの活動を継続的に行う必要がある。 | ○校内平均正答率は、目標値を4.4ポイント上回っている。しかし、区の平均値を1.6ポイント下回っている。 ○自分に関することについて書く英作文はよくできていた。しかし、場面に応じて書いたり、与えられた情報に基づいて書いたりする力に課題があるので、様々なテーマについて継続的に書くトレーニングが必要である。 | ○校内平均正答率は、目標値を1.3ポイント上回っている。しかし区の平均値を1.9ポイント下回っている。 ○資料から必要な情報を把握して読み取ったり、適切な情報を選択することがよくできていた。しかし、様々な英文を読んで、概要を捉えることに課題がある。また、理由をたずねる英文を作成することに課題がある。 |

英語の課題と具体的な授業の改善策

| 学年 | 課題 | 具体的な授業改善策 |
|----|---|---|
| 1年 | <p>○既習事項を使って、まとまりのある英文を書くことに課題がある。自分の考えを効果的に伝える表現の定着を図る必要がある。定期的なフィードバックをしながら、内省する機会を設定していく。</p> <p>○難易度が増していく語彙や文法項目を、スムーズに定着させていけるように、継続的に取り組む習慣を作る必要がある。</p> <p>○基礎学力の定着が課題であり、授業で繰り返し既習事項を復習しながら進める必要がある。</p> | <p>○授業内でまとまりのある英文を書く活動を継続的に行う。書いた英文を定期的にチェックをし、教員からのフィードバックに加え、生徒間でも意見を言い合うことでブラッシュアップする機会を作っていく。</p> <p>○学習した新出単語や文法事項を繰り返し学習するよう、小テスト等を行い家庭学習の習慣付けを図る。また、デジタル教科書やアプリを活用し、個別最適な学びの実現に向けて、学びの機会を創出する。</p> <p>○外国人講師を効果的に活用し、実際に会話する場面を多く設定する。それによりやる気の向上を図り、学習項目の定着につなげていく。その活動によって何ができるかを明確にし、生徒が見通しを持てるようにする。</p> |
| 2年 | <p>○内容別、観点別結果の分析から、語形・語法の知識の定着や、知識を活用して英文で表現する技能の向上が課題である。</p> <p>○内容別、観点別結果の分析から、場面に応じて書いたり、与えられた情報に基づいて書いたりする力に課題がある。</p> | <p>○既習の文法事項の復習を授業や家庭学習に取り入れる。また、授業で様々なテーマについてまとまりのある英文を書く練習を積み上げていく。</p> <p>○語法・語形の知識の定着のために、単元ごとに小テストを実施し、定着度を図る。また、定着度の低い分野は授業で復習をする。</p> |
| 3年 | <p>○内容別、観点別結果の分析から、語形・語法の知識の定着や、知識を活用して英文で表現する技能の向上が課題である。</p> <p>○長文を読んで、内容を理解する力や自分の意見を具体的な理由や説明をつけて書く力に課題がある。読解力を向上させるために、基本的な文法や表現を復習するとともに、まとまりのある文を読む習慣をつける必要がある。</p> | <p>○既習の文法事項の復習を家庭学習に取り入れる。また、授業で様々なテーマについて、具体的な説明や理由を付けてまとまりのある英文を書く練習を積み上げていく。</p> <p>○語法・語形の知識の定着のために、単元ごとに小テストを実施し、定着度を図る。また、定着度の低い分野は授業で復習をする。</p> <p>○読解力の向上のため、ALTを活用して、教科書の音読に力を入れるとともに、入試対策として授業で長文読解の問題演習を増やす。</p> |